

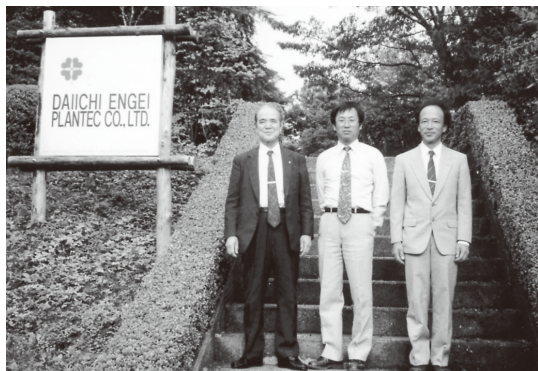
## 気配り、根回しの達人 岩井さんを偲んで

私の本棚の一隅に「戸越農園の歩み」と題する本があります。これは、岩井さんが中心となって編集されたもので、戸越農園のはじまりから、第一園芸の戸越農園へ、そして富士小山農場への移転、さらに、第一園芸から分離独立した第一園芸プランテックへの変遷の詳細が綴られたものです。岩井さんは終戦後、三井本社厚生部に入り、翌年10月三井不動産農牧課に移り、戸越農園に配属されて切花部の一員となり、育種部・販売部と活躍、昭和36年に富士園芸と併せて第一園芸が設立され、そこに移られて以来40年、第一園芸で活躍され引退されました。そのように、戸越農園と長くかかわられていた、岩井さんでなければ出来なかったお仕事の一つでありましょう。

この本の大筋については花葉11号、花葉会賞受賞記念講演「私と戸越農園」に記載されています。そして本の冒頭に「戦争直後の戸越農園」と題して塚本洋太郎先生の一文があります。先生が大阪府立園芸学校で級担任をされ、級長が岩井さんであったこと、そして戦後の海外の文献があった東大や坂田種苗を訪ねた際の宿泊先のご苦勞の中で、戸越農園の寮に居られた岩井さんの部屋に泊めていただいた、いわゆる、もぐりの来園者ということで、遠くに石田園長のお姿を認めても声をも掛けられなかったと記されています。

この一文から、いかに岩井さんが気配りをされながら先生をお泊めしていたかが想像され、若いのにたいした人だったのだなと感心したものでした。

岩井さんが、私に目を掛けてくださったのは、チューリップの促成栽培の研究を行っていたことで、ウィリアム・ピットの冷蔵促成技術の開発をされた戸越農園、そして、球根類の販売の中心であった第一園芸の



第一園芸小山農場にて 左が岩井氏

方であり、私が千葉大の後輩ということからでありました。

千葉暖地園試の林角郎さん、農水省の鈴木司さんなどと三好大先輩とのいろいろな交流の中へ呼んでいた、岡田正順先生、清水基夫先生などと小杉先生を交えて「花き研究室の後輩とどう繋りをとるか」と語り合い、「花葉会」が設立される影武者として、多くの面倒をそと受け持つておられました。

その結果として「花葉会」が設立され、会の幹事長に就任されました。

私は、岩井さんは気配りの人、根回しの上手な方と思っておりましたが、ミヨシの専務としてご苦勞されておられた魚躬さんも同様に思われておられたようです。花葉11号に岩井さんのプロフィールとして、気配りの方、もしもの方と表現しておられますし、スイートピーの栽培技術では他の人の及ばぬものがあり、それをもとに産地指導をされ、種子を売られたことに触れ、とても私の適うものではないと頭を下げておられます。

私の方は、ウィリアム・ピット全盛の時代から、レッド・ピット、パールリヒターなど品種多様化の時代となり、球根の情報や現物の手配までお世話になり研究成果を高めさせていただき、長いお付き合いとなりましたし、埼玉園試を最後に埼玉県を退職後、テクノホルティ園芸専門学校の教授としての職を提供してくださったのも岩井さんのお陰でした。勿論、林さんや植村さんは私より先に同校の教授に呼ばれており、三人ともお世話になりました。

と申すのも、テクノホルティ園芸専門学校は、伊東学園の神田予備校が、三井不動産のお世話で、埼玉の地（行田市）に土地と建物を新たにしている学校です。その教科の編成などや教授陣の多くに第一園芸の関係者が係わっておられ、岩井さんは同校の顧問でもあり、園芸流通の講義も受け持つておられましたし、元常務の坂入さんは副校長・校長を歴任され、その後を私が受け持つてまいりました。フラワーデザイン科は永島四郎先生の一歩弟子である笠原貞男さんにして、第一園芸の総力で出来上がったのも、岩井さんの根回しのお陰でしょう。

村井 千里 拝（昭和32年卒）